



地震のメカニズム



プレートが集まる 日本列島

1 日本列島について

日本列島は、「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」、「ユーラシアプレート」、「北米プレート」という4枚の境界部分にあります。このうち、太平洋プレートとフィリピン海プレートは、ユーラシアプレート、北米プレートの下に沈み込んでいます。

日本が世界屈指の地震大国であるというのも、プレートに沈み込む位置に存在するためと言われています。



防災編

防犯編

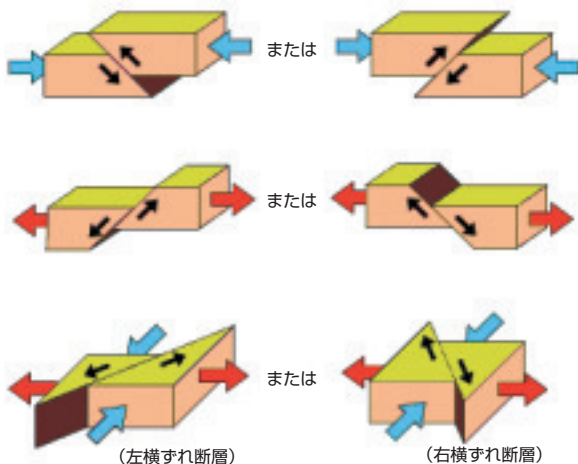
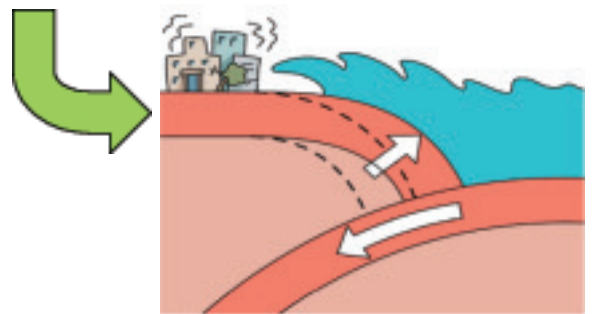
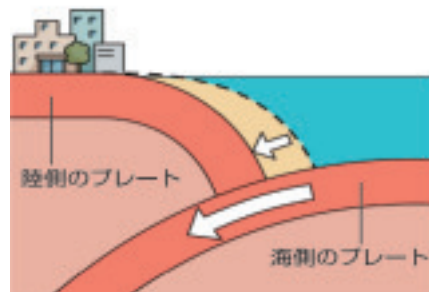
参考資料編

(1) プレート境界型

海側のプレートが陸側のプレートの下に潜り込むことで、プレート同士が接している境界にひずみのエネルギーがたまり、限界に達した時にプレートが元に戻ろうとして跳ね上がり、地震が起きます。

1923年に発生した関東地震（関東大震災）や、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が例として挙げられます。

このタイプの地震は、津波を引き起こす場合もあります。



←→ 圧力 (押し力) ←→ 張力 (引く力) ⇄ 断層がずれる方向

画像提供：彦根気象地方台

(2) 活断層型

地下の岩盤に押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にひずみのエネルギーがたまり、限界に達したとき断層面同士が急速にずれ動き、地震が起きます。

内陸地震は、一般にプレート型地震に比べ規模が小さいと言われますが、街の近くで発生するため大きな災害をもたらします。

1995年に発生した兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）もこのタイプの地震でした。

滋賀の活断層

滋賀県に所在する主な活断層は、以下のとおりです。

湖北山地断層帯

位置：湖北山地断層帯は北西部と南東部に区分される。
断層帯北西部は、敦賀市から高島市今津町に至る断層帯、長さは約25km。
断層帯南東部は、敦賀市南部の滋賀県境付近から高島市今津町に至る断層帯。長さは約16km。

将来の活動予測規模：北西部M7.2程度
南東部M6.8程度

柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯

位置：柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯は、福井県福井市鮎川から福井市越前岬沖の若狭湾東縁を通り、長浜市木之本町を経て、岐阜県不破郡垂井町に至る柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部と、福井県敦賀市の立石岬付近から敦賀湾を横切り、長浜市余呉町に至る「浦底-柳ヶ瀬山断層帯」からなる。柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯主部は、全体の長さは約100km。浦底-柳ヶ瀬山断層帯は、長さが約25km。

断層帯主部の活動予測規模：北部M7.6程度、中部M6.6程度、南部M7.6程度。北中部または南中部が活動する場合はM7.8程度。断層帯全体の場合はM8.2程度。

浦底-柳ヶ瀬山断層帯の活動予測規模：M7.2程度

次項で詳しく説明します。

琵琶湖西岸断層帯

野坂・集福寺断層帯

位置：野坂断層帯は、若狭湾から福井県三方郡美浜町を経て敦賀市に至る断層帯。長さは約31km。
集福寺断層は、敦賀市から滋賀県長浜市西浅井町に至る断層。長さは約10km。

将来の活動予測規模：野坂：M7.3、集福寺：M6.5

鈴鹿西縁断層帯

位置：鈴鹿西縁断層帯は、滋賀県米原市から、甲賀市土山町に至る断層帯。長さは約44km。

将来の活動予測規模：M7.6

頓宮断層

位置：頓宮断層は、甲賀市水口町から三重県伊賀市に至る断層。長さは約31km。

将来の活動予測規模：M7.3

木津川断層帯

位置：木津川断層帯は、三重県伊賀市から京都府相楽郡笠置町に至る断層帯。長さは約31km。

将来の活動予測規模：M7.3

花折断層帯

位置：花折断層帯は、高島市から京都市を経て京都府宇治市に至る断層帯。長さは約58m。

将来の活動予測規模

北部：M7.2程度、中南部：M7.3程度
中部と南部が別々に動く場合（中部M7.0程度、南部M6.8程度）



震度

震度とは、地震の揺れの強さを表していて、気象庁の震度階級は体感する震度の様子や、それに伴う周囲の変化を10段階で分類しています。

震度 3	<ul style="list-style-type: none"> * 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。 * 棚にある食器類が音を立てることがある。 * 伝電線が少し揺れる。 	
震度 4	<ul style="list-style-type: none"> * ほとんどの人が驚く。 * つり下げた電灯や看板などが大きく揺れ、棚にある食器が音を立てる。 * 高速道路や鉄道などで帰省や運転見合わせがある。 	
震度 5弱	<ul style="list-style-type: none"> * 棚の食器類や書棚の本が落ちることがある。 * 窓ガラスが割れて落ちることがある。 * 地盤に亀裂や液状化が生じ、落石や崖崩れが発生することがある。 	
震度 5強	<ul style="list-style-type: none"> * 行動に支障を感じる人が多くなる。 * 家具や自動販売機が倒れることがある。 * 耐震性の低い住宅では壁などにひび割れや亀裂が入ることがある。 	
震度 6弱	<ul style="list-style-type: none"> * 立っていることが困難になる。 * ドアが開かなくなることがある。 * 耐震性の低い木造住宅の瓦礫が落下することがあり、倒壊するものもある。 	
震度 6強	<ul style="list-style-type: none"> * はわないと動くことができない。 * 家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 * 耐震性の高い住宅でも、壁にひび割れや亀裂が入ることがある。 	
震度 7	<ul style="list-style-type: none"> * 動くこともできず、飛ばされることもある。 * 家具のほとんどが移動して倒れ、飛ばれることもある。 * 耐震性の高い住宅でも傾くことがある。 	

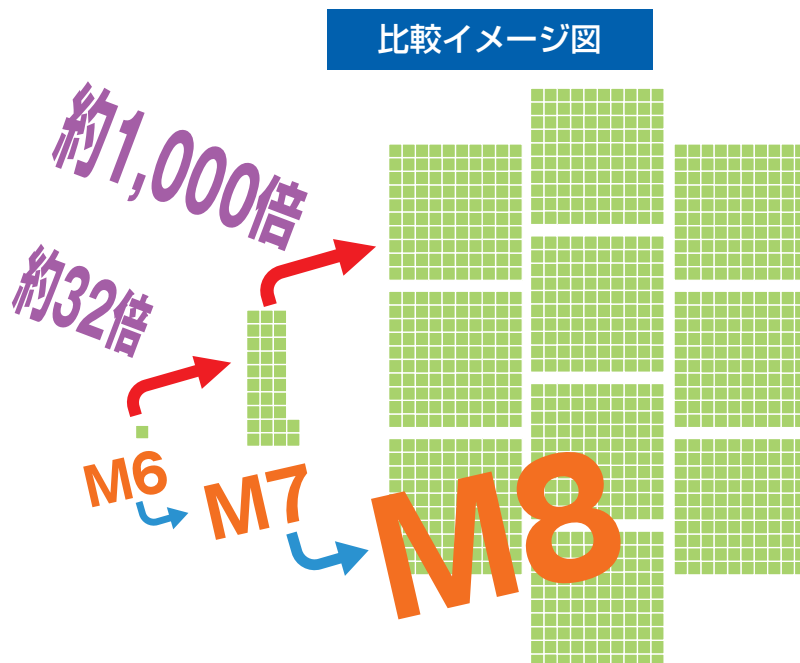
(注)：震度0、1、2は省略しています。

マグニチュード

マグニチュード（M）は、地震のエネルギーを表しています。マグニチュードの数字が1増えると、地震のエネルギーは約32倍に、2増えると約1,000倍になります。

M7の地震は、M6の地震の約32回分のエネルギーで発生したことを意味します。

なお、揺れの強さを表す震度とマグニチュードに、関連はありません。



以下の表は、近年起きた地震、起きる可能性のある地震について、マグニチュードの大きさごとに分別しています。

地震の規模 (マグニチュード)	名称
6.8	新潟県中越地震 平成16年(2004年)10月23日 死者:68人 行方不明者:なし 最大震度:震度7
6.8	新潟県中越沖地震 平成19年(2007年)7月16日 死者15人 行方不明者:なし 最大震度:震度6強
6.8	姉川地震 明治42年(1909年)8月14日 死者:41人 行方不明者:なし 最大震度(当時):震度6程度
6.9	能登半島地震 平成19年(2007年)3月25日 死者:1人 行方不明者:なし 最大震度:震度6強
7.1	琵琶湖西岸断層帯地震(北部) 今後30年以内に1~3%の発生確率 死者885人(ケース3※、早朝に発生した場合の想定)
7.2	岩手・宮城内陸地震 平成20年(2008年)6月14日 死者:17人 行方不明者:6人 最大震度:震度6強
7.3	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災) 平成7年(1995年)1月17日 死者:6,434人 行方不明者:3人 最大震度:震度7
9.0	東北地方太平洋沖地震(東日本大震災) 平成23年(2011年)3月11日 死者:16,079人 行方不明者:3,499人 最大震度:震度7

滋賀県

滋賀県

被害想定

※ 琵琶湖西岸断層帯の地震は、震源別にケース1、ケース2、ケース3が想定されています。
出典:平成23年版消防白書・滋賀県地域防災計画(震災対策編)



1 位置と地形

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市（旧マキノ町）から大津市国分付近に至る断層帯で、概ね南北方向に延びており、この断層帯は、過去の活動時期の違いから、断層帯北部と断層帯南部に区分されています。

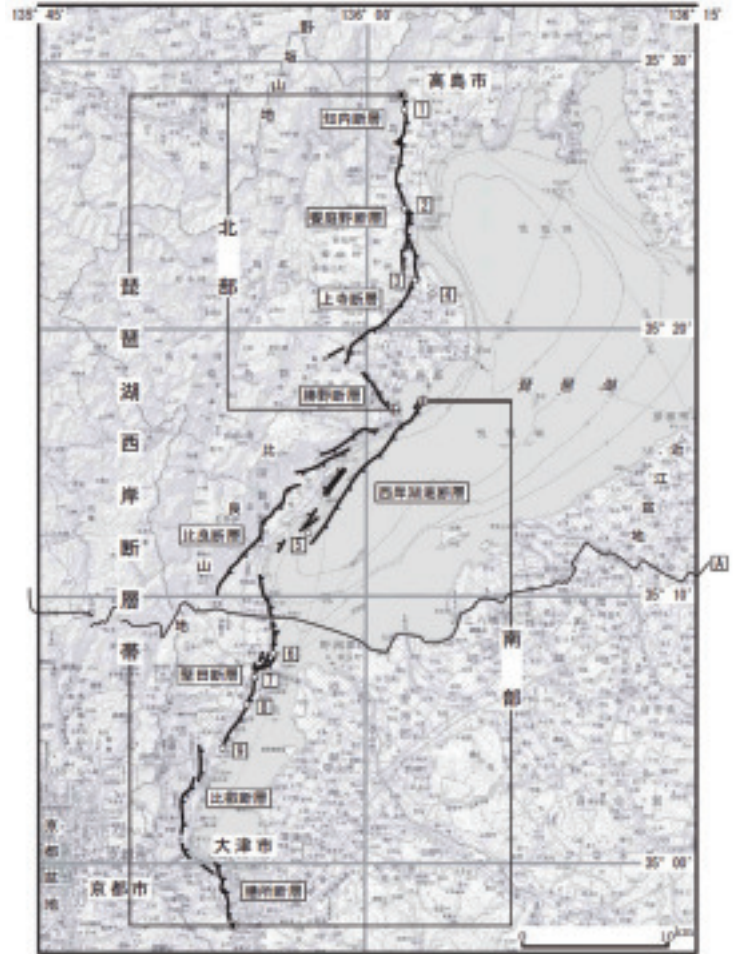
(1) 断層帯北部

高島市に分布し、長さは約23kmに至る断層で、ほぼ南北方向に延びています。

(2) 断層帯南部

高島市南方（旧高島町付近）の琵琶湖西岸付近から大津市国分付近に至る断層です。長さは約38kmに亘り、北北東から南南西方向に延びています。

断層帯全体としての長さは約59kmで、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層とされています。



琵琶湖西岸断層帯位置図

<出典> 琵琶湖西岸断層帯の長期評価の一部改訂について
(平成21年8月27日地震調査研究推進本部地震調査委員会)

2 将来の活動予想

今後 30年内

将来起こる可能性のある地震		マグニチュード	発生確率	活断層における相対的評価
琵琶湖西岸断層帯地震	北部	7.1程度	1～3%	高いグループに属する。
	南部	7.5程度	ほぼ0%	
東南海地震		8.1前後	70%程度	/
南海地震		8.4前後	60%程度	

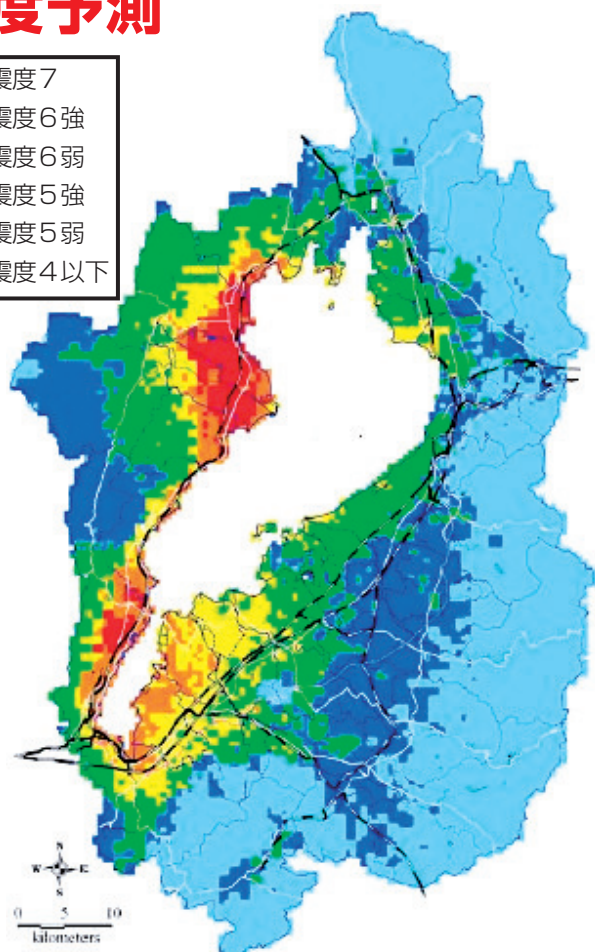
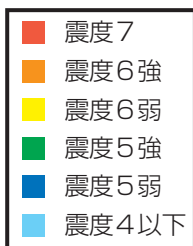
※平成24年（2011年）1月1日現在

過去に起こった地震	マグニチュード	最大震度	発生確率
兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）	7.3	震度7	0.02～8%
東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）	9.0	震度7	/

発生直前

3 被害想定

震度予測



市町別被害想定

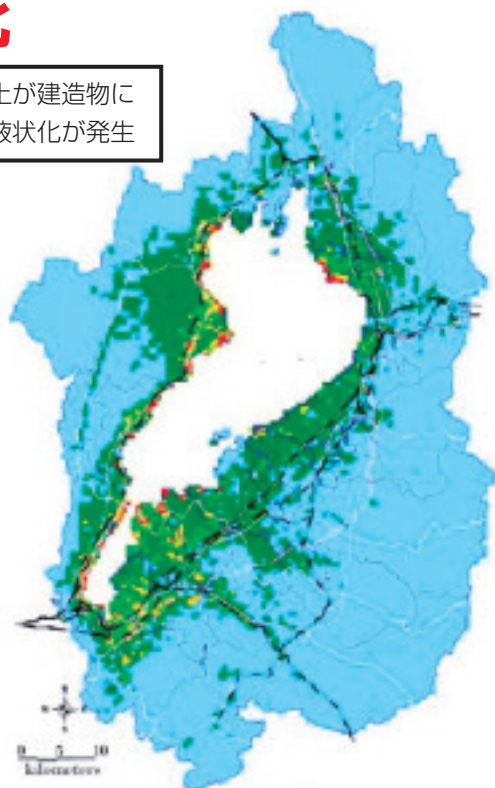
	被害棟数	死者数	負傷者数	遭難者数
大津市	42,436	408	4,531	36,609
彦根市	1,457	2	207	976
長浜市	6,142	30	789	4,431
近江八幡市	605	1	84	382
草津市	10,457	71	1,752	9,908
守山市	7,964	41	1,240	6,649
栗東市	2,011	5	445	1,941
甲賀市	1	0	1	1
野洲市	1,707	6	233	1,208
湖南市	45	1	10	38
高島市	16,373	317	595	10,527
東近江市	438	2	55	258
米原市	0	0	0	0
日野町	0	0	0	0
竜王町	17	1	3	11
愛荘町	12	0	2	8
豊郷町	0	0	0	0
甲良町	0	0	0	0
多賀町	0	0	0	0
合計	89,665	885	9,947	72,947

注：被害量の予測は、ケース3に基づいています。
被害棟数は、全壊と半壊を合計しました。
死者数と負傷者数は、早朝に発生したと想定して算出しています。

※ 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース3：震源を高島市中部で想定）の場合

液状化

PL ≥ 10以上が建造物に影響のある液状化が発生



これらの図は、琵琶湖西岸断層帯地震が北部で発生した場合における「震度」、「市町別被害想定」、「液状化の危険度」を予測したものです。

琵琶湖西岸断層帯は、北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されていますが、断層帯全体が1つの区間として同時に活動する可能性もあると言われています。

北部が活動する場合、M7.1程度、南部が活動する場合はM7.5程度、断層帯全体が活動する場合には、M7.8程度の地震が発生すると推定されています。

<出典>

滋賀県地域防災計画（震災対策編）
地震調査研究推進本部長期評価抜粋

※ 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース3：震源を高島市中部で想定）の場合

2 自宅で地震に遭遇したときの動き

赤色の見出しは主に自助の動き、紫色は主に共助の動きを整理しました。優先度が高い項目から先に並べています。実際に被災した場合を想定して、地域での取組等に生かしてください。

地震発生

情報を集めよう!!

- ◇ 近所の出火や家屋の状況など、周囲の情報を集めます。
- ◇ テレビやラジオから情報を集めます。
- ◇ 災害時要援護者の安否を確認します。

地震による家屋の倒壊や、火災の延焼など危険があれば

避難しよう!!

- ◇ ガスの元栓を閉め、出火を防止しましょう。
- ◇ 電気のブレーカーを落としましょう。
- ◇ 行き先をメモに書き、目立つところに張りましょう。

身を守ろう!!

- ◇ 机やベッドの下などに隠れ、身を守りましょう。
- ◇ 寝ているときは布団や枕で頭を守りましょう。
- ◇ 小さな揺れでも火を消しましょう。

確認しよう!!

- ◇ 火元を確認し、初期消火します。
- ◇ ドアや窓をあけ、避難口を確保します。
- ◇ 家族の安全を確認します。

用意しよう!!

- ◇ 非常持ち出し袋を用意しましょう。
- ◇ 屋内でも靴を履き、すぐに避難できるようにしましょう。

3日後...



助け合いが大切!!

- ◇ 自主防災組織や消防団、近所と協力して、困った人への救助や消火活動を行いましょう。
- ◇ ブロック塀や切れた電線、ガラス窓には近づかないように気をつけ、集団で避難しましょう。
- ◇ 自足生活が原則ですが、隣近所の人たちや地域の人たちで助け合いましょう。

災害時要援護者支援

災害時要援護者とは、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々のことであり、一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等が挙げられます。（「災害時要援護者の避難支援ガイドライン（災害時要援護者の避難対策に関する検討会）」から抜粋）

要援護者は、非常時の避難などに時間がかかる場合があります。いざという時に慌てることなく、要援護者の安否確認、避難支援が確実にできるような、あらかじめ要援護者の所在や実態を把握しておき、どのような支援が必要なのかを地域で話し合い、迅速に支援できるようにしておくといでしょう。

その他にも、避難所で必要となる生活用品、介護用品はどのようなもので、どの程度必要かといった情報を集めておきましょう。





家族で決めよう

地震は必ずやってきます。いざという時、慌てずに行動できるよう、家族で今から話し合っておきましょう。

家族で話し合っておくこと

<input type="checkbox"/>	地震が起きたとき、どうする？
<input type="checkbox"/>	外出先で身を守るにはどうすればよいのか？
<input type="checkbox"/>	家族が離ればなれになったとき、連絡をとる方法は？
<input type="checkbox"/>	どこへ避難すればよい？
<input type="checkbox"/>	家や家の周りは危なくないかな？
<input type="checkbox"/>	家具が倒れてきたり、落ちてきたりしないかな？
<input type="checkbox"/>	非常持ち出し袋や常備品はそろっているかな？
<input type="checkbox"/>	避難生活では、何に注意すればいい？

※ 家具の転倒防止については、次項参照。

家族で備えよう

避難所で最初の1日をしのぐための非常持ち出し品と、救援物資が届くまでの3日間、避難生活を送るための備蓄品を家族で用意しておきましょう。

避難生活に行く前に

品名	
1	<input type="checkbox"/> 懐中電灯
2	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ
3	<input type="checkbox"/> ローソク・ライター
4	<input type="checkbox"/> 缶入り乾パン
5	<input type="checkbox"/> ペットボトル入りの飲料水
6	<input type="checkbox"/> 救急セット・常備薬
7	<input type="checkbox"/> 万能はさみ
8	<input type="checkbox"/> 軍手・手袋
9	<input type="checkbox"/> ロープ
10	<input type="checkbox"/> レジャーシート
11	<input type="checkbox"/> サバイバルブランケット
12	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ
13	<input type="checkbox"/> タオル
14	<input type="checkbox"/> ポリ袋
15	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー
16	<input type="checkbox"/> ウェットティッシュ
17	<input type="checkbox"/> 笛
18	<input type="checkbox"/> 現金
19	<input type="checkbox"/> ガムテープ
20	<input type="checkbox"/> 油性マジック、筆記用具
21	<input type="checkbox"/> 防災ずきん(ヘルメット)
22	<input type="checkbox"/> 履きもの
23	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ

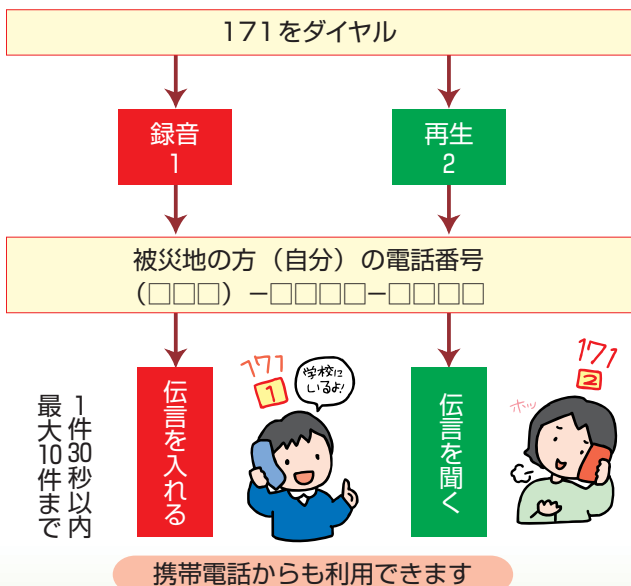
非常持ち出し品

171を家族で覚えよう

災害時には、被災者の安否確認のため、電話回線が混雑します。そんな時、スムーズに連絡できるのが災害伝言ダイヤル「171」です。

災害以外にも、毎月1日、15日や防災週間（8／30～9／5）に体験利用できるので、事前に練習しておきましょう。

災害用伝言ダイヤル



現金、携帯電話の充電器などの必需品や、女性・高齢者・赤ちゃん用品も必要に応じて準備しましょう。


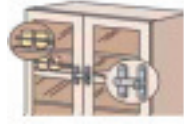


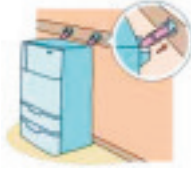

避難生活に

品名	
1	<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットル)
2	<input type="checkbox"/> アルファ米
3	<input type="checkbox"/> 乾パン
4	<input type="checkbox"/> インスタント食品
5	<input type="checkbox"/> レトルト食品
6	<input type="checkbox"/> 缶詰類
7	<input type="checkbox"/> 切り餅
8	<input type="checkbox"/> ビスケット、キャンディ、チョコレート
9	<input type="checkbox"/> 塩
10	<input type="checkbox"/> 衣服
11	<input type="checkbox"/> タオル
12	<input type="checkbox"/> 毛布
13	<input type="checkbox"/> 雨具
14	<input type="checkbox"/> 予備電池
15	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ・ガスボンベ
16	<input type="checkbox"/> 固定燃料
17	<input type="checkbox"/> 鍋・やかん
18	<input type="checkbox"/> ラップ
19	<input type="checkbox"/> 皿、コップ、割り箸、スプーン
20	<input type="checkbox"/> 歯ブラシ
21	<input type="checkbox"/> 石けん
22	<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器
23	<input type="checkbox"/> 新聞紙
24	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ
25	<input type="checkbox"/> 安全ピン

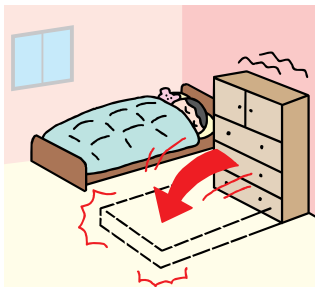
備蓄品

家具の転倒防止

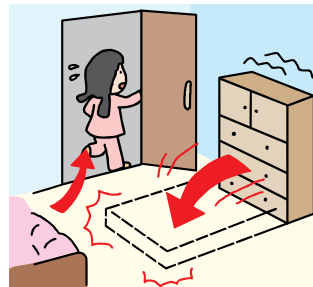
族を守る

タンス	食器棚	本棚	テレビ	冷蔵庫	照明
<p>*じゅうたんや畳の上など滑りやすい床に家具を置いてある場合、下に板を敷く。</p> 	<p>*棚板にふきんを敷いて滑り止めをする。 *棚の上に荷物など置かない。</p> 	<p>*重たい本は下段に入れる。 *できるだけ隙間をつくらない。</p> 	<p>*樹脂製の免震シート（耐荷重と耐用年数を要確認）で固定する。 *高い所に置かない。</p> 	<p>*扉に開き止め金具を付ける。 *裏の取手と壁をつなぐ。 *扉と扉の間にワイヤーを通し、壁とつないで固定する。</p> 	<p>*蛍光灯の両端を耐熱テープで止める。 *吊り下げ型の蛍光灯は、ワイヤーやチェーンで数力所固定する。</p> 

家具の配置も工夫しよう！



家具を設置するとき、それぞれ倒れる方向は避けて配置しよう。

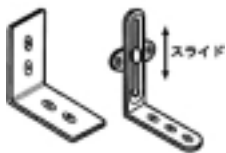


出入り口付近には家具や物を置かない。家具が倒れても逃げ道をふさがないように配置しよう。

転倒防止器具の紹介

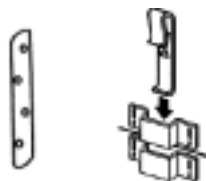
効果が高い

L型金具



家具と壁を木ネジ、ボルトによって固定するタイプ

連結金具



家具の上下を連結し転倒、移動を防ぐためのもの

効果がある

ベルト式



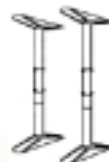
家具等と壁にそれぞれネジ止めした金具をベルトで結んだタイプ

ストッパー式



家具の前下部にくさび状に挟み込み、家具を壁側に傾斜させるタイプ

つっぱり棒式



ネジ止めすることなく、家具と天井の間隙に設置する棒状のタイプ

出典：オフィス家具類・一般家電製品の転倒・落下防止対策に関する指針（東京消防庁）

簡易耐震診断

以下の表によって、現在お住まいの住宅が地震に対して安全かどうかを簡単に診断することができますので、判断の目安として下さい。この診断は、在来工法で建てられた一戸建て住宅を対象にしています。

問 診	項 目	評 点	自己評点
①建てたのはいつ頃ですか？	建てたのは昭和56年（1981年）6月以降。	1	
	建てたのは昭和56年（1981年）5月以降。	0	
	よく分からない。	0	
②いままでに大きな災害に見舞われたことはありますか？	大きな災害に見舞われたことがない。	1	
	床下浸水・床上浸水・火災・車の突入事故・大地震・崖上隣地の崩落などの災害に遭遇した。	0	
	よく分からない。	0	
③増築について	増築していない。また建築確認など必要な手続きをして増築を行った。	1	
	必要な手続きを省略し、または増築を2回以上繰り返している。増築時、壁や柱を一部撤去するなどした。	0	
	よく分からない。	0	
④傷み具合や補修・改修について	傷んだところはない。または、傷んだところはその都度補修している。健全であると思う。	1	
	老朽化している。腐ったり、しりありの被害など不都合が発生している。	0	
	よく分からない。	0	
⑤建物の平面はどのような形ですか？	どちらかというとき長方形に近い平面。	1	
	どちらかというときLの字・Tの字など複雑な平面。	0	
	よく分からない。	0	
⑥大きな吹き抜けがありますか？	一辺が4m以上の大きな吹き抜けはない。	1	
	一辺が4m以上の大きな吹き抜けはある。	0	
	よく分からない。	0	
⑦1階と2階の壁面が一致しますか？	2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がある。または平屋建てである。	1	
	2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない。	0	
	よく分からない。	0	
⑧壁の配置はバランスがとれていますか？	1階外壁の東西南北などの面にも壁がある。	1	
	1階外壁の東西南北各面の内、壁が全くない面がある。	0	
	よく分からない。	0	
⑨屋根葺材と壁の多さは？	瓦など比較的重い屋根葺材であるが、1階に壁が多い。または、スレート・鉄板葺・銅板葺材など比較的軽い屋根葺材である。	1	
	和瓦・洋瓦など比較的重い屋根葺材で、1階に壁が少ない。	0	
	よく分からない。	0	
⑩どのような基礎ですか？	鉄筋コンクリートの布基礎またはベタ基礎・杭基礎。	1	
	その他の基礎。	0	
	よく分からない。	0	

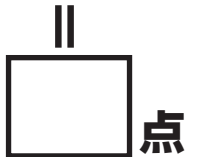
(注)：この診断は地盤について考慮していませんので、地盤の影響については専門家にお尋ねください。

10点：ひとまず安心。ですが、念のために専門家に診てもらいましょう。

8～9点：専門家に診てもらいましょう。

7点以下：早めに専門家に診てもらいましょう!!

出典：(財)日本建築防災協会「誰でもできるわが家の耐震診断」



耐震診断を受けてみませんか？

築30年以上の木造住宅

住宅の耐震化は、私たちの命を守るために大変重要な地震対策の一つです。昭和56年5月31日以前に着工された建物は、現行の耐震基準を満たさない恐れがあります。

これらの住宅には、無料で耐震診断を受けられる制度や、耐震補強の補助制度などが用意されていますので、一度市町の担当窓口にご相談してみるとよいでしょう。（市町の担当窓口や制度概要は、滋賀県ホームページを御参照下さい。）

経済的負担が大きいなど、やむを得ず耐震補強が困難な場合は、安全な空間を比較的安く簡単に確保できる「耐震シェルター」や「防災ベッド」を設置し、自らや家族の身を守りましょう。



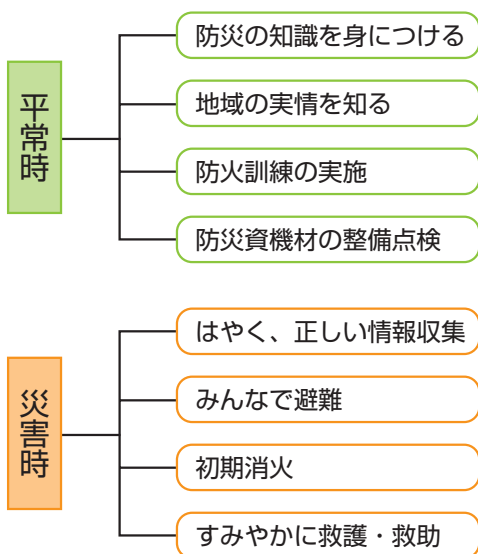
耐震シェルター

参考：滋賀県建築課建築指導室 住まいの安全対策担当 <http://www.pref.shiga.jp/h/kenchiku/kenchikushidoushitsu/sumai.html>

自主防災組織

自主防災組織とは

「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えで防災の活動をする組織です。



災害の直後は、消防や自衛隊といった**公助**が駆けつけられない場合が考えられます。被害の防止または軽減を図るために、地域の実情に通じた**共助**が大切です。

自主防災組織では、日頃から災害に備え、地域に防災力を付けるために活動されています。



※しらしがは、「しらせる滋賀情報サービス」の略称です。

滋賀県では、防災・防犯等の身の回りの危険に関する情報を、ご希望の方へ電子メールで配信しています。是非、日々の生活や災害時に役立ててください。

地上デジタル放送がご覧いただけるテレビでは、NHK大津やびわ湖放送のデータ放送から一部の情報を確認することができます。

1	避難情報	避難勧告・指示などの情報
2	河川水位情報	観測点で一定の基準値を超えたときの河川水位情報
3	雨量情報	観測点で一定の基準値を超えたときの雨量情報
4	土砂災害警戒情報	土砂災害警戒情報の発表または解除
5	けいたくん防犯情報	犯罪をはじめとする各種防犯情報（滋賀県警察）
6	食中毒注意報	7月1日から9月30日までの間の食中毒注意報
7	光化学スモッグ注意報	光化学スモッグ注意報等の発令
8	お知らせ	催し・講座、募集、試験、お知らせ、緊急のお知らせ、食の安全情報、不審者情報など
9	気象警報・注意報情報	気象警報・注意報情報の発表、または解除

【しらしが登録】

①パソコンからは下記のサイトにアクセスしてください。

<http://www.pref.shiga-info.jp>

②携帯電話からの登録は右の二次元コードから「登録手続き（登録・変更・解除）へ」と進み、entry@pref.shiga-info.jpに空メールを送信してください。





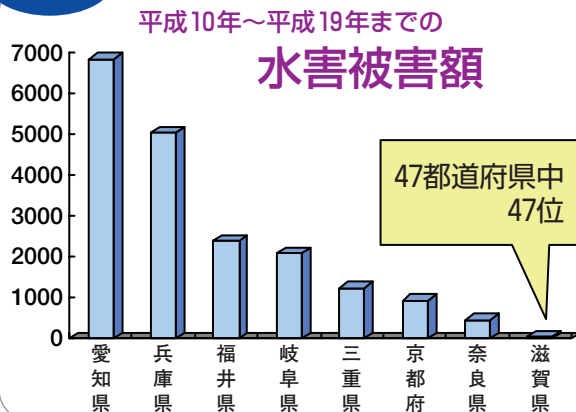
1 滋賀の水害

平成10年から19年にかけての水害被害総額をみると、滋賀県は47都道府県中最も少ないことが分かりました（図1）。

しかし、過去には台風や豪雨により、多くの方の生命や財産を失っています（図2）。

近年は、集中豪雨（ゲリラ豪雨）と呼ばれる記録的短期間の大雨の発生件数も増えています。被害が少ないという過去を過信し、滋賀では水害に遭わないと考えるのは危険です。

図1



昭和34年伊勢湾台風による浸水状況（近江八幡市水茎町）

参考：滋賀県HP 水害情報発信—水害の記録と記録—

図2

本県における過去の水害被害状況

水害	死者	負傷	住居被害戸数	5日以上の避難者数
昭和28年13号台風	43		9,390	29,284
昭和34年7号台風	4		2,434	17,081
昭和34年伊勢湾台風	15		5,920	19,816
昭和40年梅雨前線・台風	3		1,982	12,282
平成2年19号台風	1		180	1,428
平成7年5月豪雨				53
平成13年7月豪雨		1	9	4

2 集中豪雨の多発化

右のグラフは、気象庁がアメダスで観測した全国の1時間降水量50mm以上の短時間強雨の発生回数を年ごとに表したものです。

気象庁によると、観測データが過去30年余りしかないため、地球温暖化との関連を論じるには、統計期間も短く、明らかでないそうです。

しかし、右のとおり短期間強雨は近年増加傾向にあることから、突発的な雨に注意が必要です。（参考：気象庁HP）

1時間降水量50mm以上の年間発生回数（1000地点）

